

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：34312  
 研究種目：研究活動スタート支援  
 研究期間：2019～2021  
 課題番号：19K23092  
 研究課題名（和文）小学校英語教育のための複言語教育を活かしたチーム・ティーチング授業教材の開発  
  
 研究課題名（英文）Development of Plurilingual Materials for the Team-taught Elementary English Classroom  
  
 研究代表者  
 Daniel Pearce (Pearce, Daniel Roy)  
  
 京都ノートルダム女子大学・国際言語文化学部・講師  
  
 研究者番号：40845088  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、小学校外国語教育を行う際に外国語指導助手（ALT）の言語リソースを最大限に活かすための教材共有のためのデータベースを構築することであった。  
 成果として、従来「英語のみのリソース」として意識されていたALTの大半は英語・日本語以外の使用できる言語を保持していることを証明した上、多くのALTが小学校外国語教育により多言語を導入したいという意志があることが判明した。  
 小学校の外国語教室が実は多言語環境であることを把握した上、現役教諭・ALTとともに教材開発を行った。開発した教材の日本語・英語バイリンガルの授業案・資料等を作成して、インターネット上のデータベースにて公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
 外国語教育は英語のみに焦点を当ててきたが、外国語は英語だけではない。実際、学習指導要領解説には「世界には英語以外の言語を話す人々も多い。…世界の人々を理解するには、英語以外の言語を使う人々の日常生活も取り上げることが大切である」（文部科学省、2018）との記述がある。しかし、英語以外の言語を取り上げるのに、その教育的な意義や、言語的多様性に対する理解不足などの障壁がある。  
 本研究は、従来「英語のみのリソース」として使われてきた外国語指導助手が実は多言語的な存在であると証明した上、彼らの言語を授業に導入するための教材開発と公開を行ったことにより、小学校外国語教育をより豊かにする手段が提供できた。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to develop a database for sharing teaching materials in order to maximise the potential language resources of assistant language teachers (ALTs) when teaching foreign languages in elementary schools.  
 The results showed that the majority of ALTs, who have previously been portrayed as English-only resources, are in fact users of languages other than English and Japanese, and that many ALTs are willing to introduce a greater degree of multi(pluri)lingualism into elementary school foreign language teaching.  
 Having ascertained that elementary school foreign language classrooms are in fact multilingual environments, teaching materials together were developed with the support of active teachers and ALTs. Bilingual Japanese/English lesson plans and materials for teachers were prepared and made available on an internet database.

研究分野：教育言語学、複言語教育

キーワード：外国語指導助手（ALT） 複言語教育 小学校 教材開発 STEAM 言語への目覚め活動 チーム・ティーチング 分野横断的学習

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 平成30年度以降、外国語指導助手 (Assistant Language Teacher: ALT) が小学校外国語教育の7割以上の授業に参加するようになってきている (文部科学省、2018)。歴史的に ALT のほとんどが英語母語話者であったが、人数の増加に伴い、ALT 人口に質的变化が起こり、非英語母語話者が増えてきている (狩野・尾関、2018)。現在、ALT の多くには英語・日本語以外の言語が使用できると想定されているが、小学校外国語教育は、英語の運用能力にのみ注目してきたため、ALT の多言語性については調査が行われていない。

(2) 近年、国内外で注目を浴びている複言語主義に基づいた教育は目標言語だけではなく、教室と社会に存在するすべての言語を外国語教育に還元することにより、学習者の個別言語能力を支える「複言語・複文化能力」の育成を図るアプローチである。ALT との授業に複言語教育を導入することで、ALT の保持する言語リソースが承認される上、児童生徒にとって、多種多様な言語やその機能、使用に親しませることから、その後特定の言語 (日本の場合、英語) を学ぶ意欲を起こさせると言われている (Candelier, 2003) ことから、ALT との授業における複言語教育の妥当性を検討することには意義がある。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校外国語教育を行う際に ALT (等) の言語リソースを最大限に生かすための教材共有のためのデータベースを構築することである。しかし、ALT の言語に関する先行研究は母語にのみ焦点を当ててきたため、ALT の保持する言語の全体像が知られていない。そこで本研究は、

- (1) ALT の使用可能な言語を把握するためにデモグラフィック調査を行う。
- (2) 学級担任・ALT のニーズ分析を行い、現職の学級担任・ALT の協力を得て、教室内の言語リソースを活かす授業を実践するために共同アクションリサーチと教材開発を行う。
- (3) 言語リソースを活かすための手引き・教材集データベースを構築する。

### 3. 研究の方法

- (1) 既に協力者がいる東北・関東・関西地方に協力を得て、また、オンライン等の ALT コミュニティーにも調査協力をお願いし、ALT の使用言語について質問紙調査を行う。
- (2) 現職の学級担任・ALT を対象に授業の参与観察・共同アクションリサーチ及び聞き取り調査を行う。テーマ分析 (Braun & Clarke, 2006) を用いて、ニーズ分析等を行った上、複数言語を活かした授業の妥当性と実現可能性を検討する。
- (3) 既に協力関係を築いている国内外の研究者に複言語教育の実践についての聞き取り調査及び授業参与観察を行うことにより複言語教育の知見を深める。

### 4. 研究成果

(1) 2019年～2020年にかけて、ALT の使用可能な言語に関する質問紙調査を行った。結果として、参加者181名のうち、179名 (99%) がある程度の日本語運用能力を報告しており、また102名 (57%) が日本語と英語以外に使用できる言語があると報告している (図1参照)。質問紙調査の結果をピアース (2020) と Pearce (2021) で報告している。

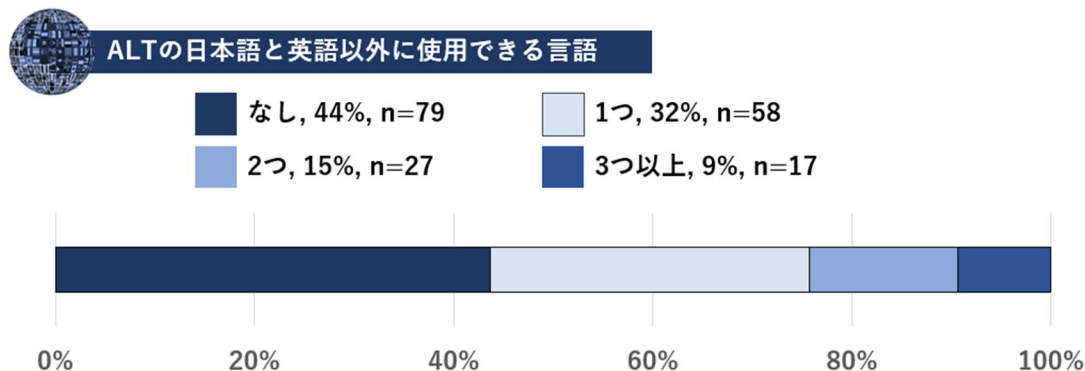


図1 ALT の使用できる言語 (ピアース, 2020; Pearce, 2021 参照)

(2) ALT のニーズ分析に関しては、新型コロナウイルスの影響により授業参与観察ができなかったものの、Zoom などの通話ツールを用いて、8名の複数言語を使用する ALT を対象に聞き取り調査を行った。テーマ分析の結果から、1)ほとんどの ALT が英語以外の言語を導入する意義を認めており、そして2)複言語教育に直接的な言及がなかったが、何人かの ALT が複数

言語を授業で取り扱う教育的意義を挙げていた。しかし、複数言語を導入するに当たって、教科書のしぼりや多言語使用への理解が行き届いていないことが障壁になっていることを指摘した ALT も複数名いた。分析結果をピアース (2021) でまとめている。また、学級担任のニーズ分析に関しては、視覚的言語自伝 (Molinié, 2019) という手法を用いて、二人の現役小学校教諭を対象に質的研究を行い、その結果を Moore et al (2021) 及び Pearce (2022) を介して複数言語により公開している。

(3) 新型コロナウイルスの影響により研究開始当初に予定していた国外の複数言語教育の授業参与観察や聴き取り調査ができなかったものの、2020年1月~6月まで京都大学に客員教授として招聘されていた外国人研究者 (Danièle Moore) と別の科研費プロジェクトの研究協力者との共同研究を通して複数言語教育の意義についての知見を深め、国内外の研究論文を複数本発表すると共に今後の研究課題を明確化できた。また、2020年2月にフランス国立東洋言語文化学院 (INALCO) の教授である Gilles Forlot 氏を招聘し、複数言語教育に関する特別講演を京都ノートルダム女子大学にて開催した。さらに、他の科学研究費プロジェクト (18H00688, 代表: 西山教行; 18K00700, 代表者: 清田淳子; 18K12476, 代表者: 大山万容) と協力し、2020年11月に国際研究集会「ひとつの言語教育から複数の言語教育へ: CEFR からみた日本語、英語、外国語教育の連携と協働」を開催した。

(4) 研究協力者との授業参与観察と共同アクションリサーチを通して、いくつかの教材を開発し、または既存の教材の日本への文脈化を行い、学級担任と ALT が容易にアクセスできるように、バイリンガル授業案・教材をいくつかインターネット上に公開している (図2)。中には、「給食プロジェクト」と呼ばれる長期プロジェクトに ALT 等の協力を得て、多言語ビデオ教材の作成をし、給食と結び付けて分野横断的な複数言語教材の作成もできた。当該プロジェクトは研究論文の Pearce et al (2021) と大山ら (2022) 以外にも、『学校給食』(大山, 2022; 藤田, 2022) にも紹介されている。研究期間終了後にも随時教材を公開する予定。

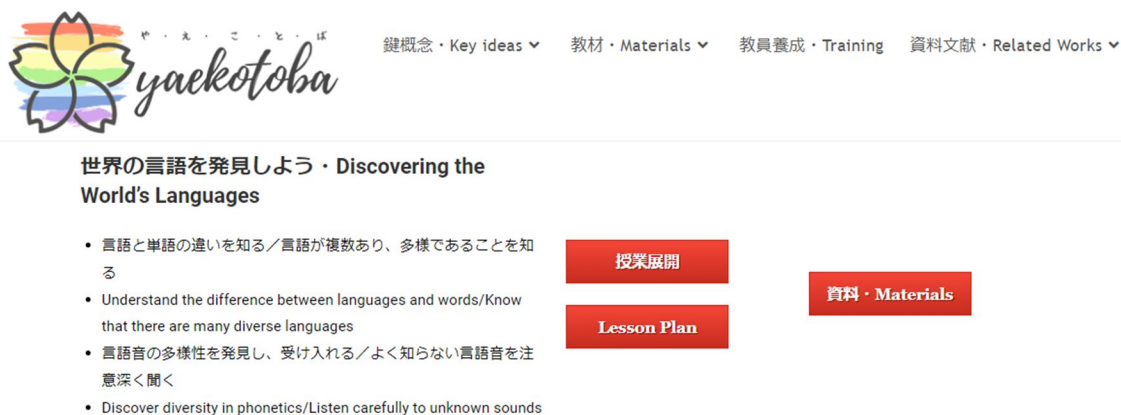


図2 教材の公開データベース、yaekotoba.com

(5) 現役 ALT 主催の ALT 向け研究集会である「ALT Agora」と、福井大学主催の「外国語教育実践を語り合うカフェ会」に招聘され、ALT と学級担任向けの複数言語教育に関する講演・ワークショップを複数回行った。

(6) 本研究の成果を複数の口頭発表および10本程度の研究論文で発表できた。中には、Pearce et al (2020) が「Research Anthology on Applied Linguistics and Language Practices」(ISBN: 9781668456828) の再掲に選ばれ、そしてピアース (2021) が日本言語政策学会の優秀論文賞を受賞した。

<引用文献>

大山万容 (2022) 「食育と外国語教育を結ぶ給食プロジェクト」『学校給食』 May 2022, 31-38.  
 大山万容・ピアース ダニエル ロイ・北野ゆき・藤田恵美子 (2022) 「食育と外国語教育をつなぐ給食プロジェクト」『複数言語・多言語教育研究』 9, 17-32.  
 狩野晶子・尾関はゆみ (2018) 「小学校 ALT から見た小学校外国語活動の現状と課題」『JES Journal』 18, 116-131. [https://doi.org/10.20597/jesjournal.18.01\\_116](https://doi.org/10.20597/jesjournal.18.01_116)  
 ピアース ダニエル ロイ (2020) 「ALT 研究の盲点? 小学校で活躍するバイリンガル ALT たちの現状と課題」『第20回 小学校英語教育学会 中部・岐阜大会』 2020年10月11日  
 ピアース ダニエル ロイ (2021) 「小学校の外国語指導助手 (ALT) はモノリンガルか 単一言語教育に従う複数言語話者の位相」『言語政策』 17, 1-24.  
 藤田恵美子 (2022) 「正解の料理から広がる食育」『学校給食』 May 2022, 39-45.  
 文部科学省 (2018) 平成30年度英語教育実施状況調査 (小学校) の結果。

- Braun, V., & Clarke, V. (2006). Using thematic analysis in psychology. *Qualitative Research in Psychology, 3*(2), 77–101. <https://doi.org/10.1191/1478088706qp063oa>
- Candelier, M. (2003). *L'éveil aux langues à l'école primaire. Evlang: Bilan d'une innovation Européenne*. De Boeck. <https://doi.org/10.3917/dbu.cande.2003.01>
- Molinié, M. (2019). Biographie langagière. In Delory-Momberger, C (Ed.) *Vocabulaire des histoires de vie et de la recherche biographique* (pp. 300–303). Toulouse: Erès. <https://doi.org/10.3917/eres.delor.2019.01.0300>
- Moore, D., Oyama, M., Pearce, D. R., Kitano, Y., & Irisawa, K. (2020). Biographies langagières et EMILE, quand tous les chemins mènent... au plurilinguisme, même au Japon ! *Contextes et Didactiques, 15*(1), 13–31. <https://doi.org/10.4000/ced.2051>
- Pearce, D. R. (2021). Homogenous representations, diverse realities: Assistant language teachers at elementary schools. *The Language Teacher, 45*(3), 3–11. <https://doi.org/10.37546/JALTTLT45.3-1>
- Pearce, D. R., Oyama, M., Moore, D., & Irisawa, K. (2020). Plurilingualism and STEAM: Unfolding the paper crane of peace at an elementary school in Japan. *International Journal of Bias, Identity and Diversities in Education, 5*(2), 1–23. <https://doi.org/10.4018/IJBIDE.2020070101>
- Pearce, D. R., Oyama, M., Moore, D., Kitano, Y., & Fujita, E. (2021). Plurilingual STEAM and school lunches for learning? Beyond folklorization in foreign language and intercultural education. *International Journal of Bias, Identity and Diversities in Education, 6*(2), 33–57. <https://doi.org/10.4018/IJBIDE.2021070103>
- Pearce, D. R. (2022). Perspectives, Practice and Plurilingual Realities in Japanese Elementary Schools: Implications for Teacher Training. Unpublished doctoral dissertation, Kyoto University.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件／うち国際共著 5件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Moore Daniele, Oyama Mayo, Pearce Daniel Roy, Kitano Yuki, Irisawa Kana	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 Biographies langagieres et EMILE, quand tous les chemins menent... au plurilinguisme, meme au Japon?!	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Contextes et didactiques	6. 最初と最後の頁 243 ~ 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/ced.2051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Pearce Daniel Roy, Oyama Mayo, Moore Daniele, Irisawa Kana	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 Plurilingualism and STEAM: Unfolding the paper crane of peace at an elementary school in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Bias, Identity and Diversities in Education	6. 最初と最後の頁 1 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4018/IJBIDE.2020070101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Moore Daniele, Oyama Mayo, Pearce Daniel Roy, Kitano Yuki	4. 巻 1
2. 論文標題 Plurilingual education and pedagogical plurilinguaging in an elementary school in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Multilingual Theories and Practices	6. 最初と最後の頁 243 ~ 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1558/jmtp.17783	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Pearce Daniel Roy, Oyama Mayo, Moore Daniele, Kitano Yuki, Fujita Emiko	4. 巻 6
2. 論文標題 Plurilingual STEAM and School Lunches for Learning? Beyond folklorization in foreign language and intercultural education.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Bias, Identity and Diversities in Education	6. 最初と最後の頁 33 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4018/IJBIDE.2021070103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 ピアース ダニエル ロイ	4. 巻 17
2. 論文標題 小学校の外国語指導助手 (ALT) はモノリンガルか 単一言語教育に従う複言語話者の位相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語政策	6. 最初と最後の頁 1~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ピアース ダニエル ロイ	4. 巻 9
2. 論文標題 隠された多様性 非英語圏出身の外国語指導助手 (ALT) とのチーム・ティーチング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 1~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daniel Roy Pearce	4. 巻 45
2. 論文標題 Homogenous Representations, Diverse Realities: Assistant Language Teachers at Elementary Schools	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Language Teacher - Issue 45.3; May, 2021	6. 最初と最後の頁 3~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.37546/JALTTLT45.3-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大山 万容、モーア ダニエル、ピアース ダニエル ロイ、入澤 佳菜、北野 ゆき	4. 巻 16
2. 論文標題 フランス語学習を準備する小学校での複言語教育 言語への目覚め活動の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Revue japonaise de didactique du francais	6. 最初と最後の頁 25~41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24495/rjdf.16.1-2_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大山万容、ピアース ダニエル ロイ、北野ゆき、藤田恵美子	4. 巻 9
2. 論文標題 食育と外国語教育をつなぐ給食プロジェクト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 複言語・多言語教育研究	6. 最初と最後の頁 17~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計12件(うち招待講演 7件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 ピアース ダニエル ロイ
2. 発表標題 チーム・ティーチング再考: JTE/HRTとALTの役割を問いなおす
3. 学会等名 第8回外国語教育実践を語り合うカフェ会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ピアース ダニエル ロイ
2. 発表標題 ALT研究の盲点? 小学校で活躍するバイリンガルALTたちの現状と課題
3. 学会等名 第20回 小学校英語教育学会 中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ピアース ダニエル ロイ
2. 発表標題 チーム・ティーチング活動を考えよう: 異文化をどのように紹介すればいいか?
3. 学会等名 第11回外国語教育実践を語り合うカフェ会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Daniel Roy Pearce
2. 発表標題 ALT Past, Present & Future: From Schools to Universities, and Lifelong Learning
3. 学会等名 1st ALT Agora (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daniel Roy Pearce
2. 発表標題 Plurilingualism in Japan: What are we talking about?
3. 学会等名 JALT PanSIG 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daniel Roy Pearce, Mayo Oyama, Daniele Moore, Yuki Kitano
2. 発表標題 STEAM, Collaboration and... School Lunches for Learning? Beyond Folklorization in Intercultural Education
3. 学会等名 9th EDiLiC International Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mayo Oyama, Daniele Moore, Daniel Roy Pearce
2. 発表標題 Integrating Awakening to Languages into the Daily Life of Classes in Japan: Pluralistic Education and Professional Development
3. 学会等名 9th EDiLiC International Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 Daniele Moore, Helena Araujo e Sa, Raquel Carinhas, Koichi Haseyama, Daniel Roy Pearce, Mayo Oyama, Yuki Kitano
2. 発表標題 (Symposium) Walking The Linguistic Landscape For The Learning Of Languages: Plurilingual Cross-Lingual Approaches To Elementary Education In Canada, Japan, and Uruguay
3. 学会等名 9th EDiLiC International Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daniel Roy Pearce
2. 発表標題 Awakening to Languages (L'veil aux langues): Learning about Language and Culture
3. 学会等名 8th ALT Agora (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Daniel Roy Pearce
2. 発表標題 Revisiting the Awakening to Languages Methodology: Preparing Learners for a Complex World
3. 学会等名 10th ALT Agora (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Gaby Benthien, Daniel Roy Pearce, Linfeng Wang, Nicholas Wilson
2. 発表標題 Building Bridges Between Team Teachers
3. 学会等名 11th ALT Agora (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ピアース ダニエル ロイ
2. 発表標題 「食」を通して、学校・地域に潜む異文化を知る
3. 学会等名 東京都栄養教諭研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 大山 万容、清田 淳子、西山 教行、ピアース ダニエル ロイ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 多言語化する学校と複言語教育：移民の子どものための教育支援を考える	

1. 著者名 Silvia Melo-Pfeifer, Mayo Oyama, Daniele Moore, Daniel Roy Pearce	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 -
3. 書名 Linguistic Landscapes in Language and Teacher Education: Multilingual Teaching and Learning Inside and Beyond the Classroom	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1) ブログへの招聘投稿：「ALTs as Cultural Instructors: Introducing FREPA as a Roadmap to Teaching about Culture」（2020年9月9日：<a href="https://alitto.net/blog/">https://alitto.net/blog/</a>）</p> <p>2) 教材データベース(<a href="https://www.yaekotoba.com">https://www.yaekotoba.com</a>)</p> <p>3) 本研究課題の成果をまとめて、京都大学の博士論文「Perspectives, Practice and Plurilingual Realities in Japanese Elementary Schools: Implications for Teacher Training」として2021年度に提出し、学位を取得した。（全文公開：<a href="https://researchmap.jp/drpearce/published_papers/31681562/attachment_file.pdf">https://researchmap.jp/drpearce/published_papers/31681562/attachment_file.pdf</a>）</p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ひとつの言語教育から複数の言語教育へ：CEFRからみた日本語，英語，外国語教育の連携と協働	開催年 2020年～2020年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	Simon Fraser University			
フランス	INALCO			